平成9年（1997年）6月10日 教皇様の声 （昭和59年10月1日第三種郵便物認可）
6 JUNE,1997 毎月10日発行 第206号

教皇様の聲

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済
© 1997

発行所
財団法人■精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

聖体は生活の中心

（…）本日は皆さんと一緒に過越の秘義について考えてみたいと思います。聖木曜日から復活の朝に至る三日間は、キリスト教信仰の基礎をなすいくつもの出来事を記念する時です。

聖木曜日は「聖香油のミサ」から始まります。これは通常、各教区のカテドラルで司教と司祭たちによって行なわれます。病者と洗礼志願者のための香油が祝福され、聖香油が聖別されます。部分教会の荘厳な式典であり、自らいけにえとなって御父に最高の賛美と究極の愛の行為を捧げた大司祭、主イエズス・キリストを祝うのです。従って、キリストの司祭職とその役務者たちを記念するこの比類ない祝日に、司祭は自分たちの義務と司祭としての約束を、信者たちの面前で新たにすべきです。

聖木曜日は「聖体の制定」を記念します。最後の晩餐が感動と崇敬、霊的な強い思い入れと共に記念されるのは、そのためです。カルワリオでのイエズスのいけにえが記念される時、私たちは神聖な叙階を経て「キリストとして」ふるまう救いの奉仕者としての司祭の尊厳をあらためて認識します。そしてさらに、兄弟姉妹を愛し、仕えよという福音の命令に思い至るのです。

神秘に満ちた聖体の本質は、創造主にして贖い主である神のご計画へと信者を導きます。神は御独り子が人となること、そして私たちの永遠を目指す旅の道連れとしていつまでも留まることをお望みになりました。

聖体は力のみなもと

騒がしい今の世の中で、大切なのは聖体に目を向けることです。それは司祭と奉献生活を送る人々にとっては、何よりも大事なことです。聖体に心を留めることは、忠実と愛徳と使徒職の義務を果たす上で、光とも力ともなってくれるでしょう。子供や若者たちを教え導くに当たっての理想、困難に遭う人や病人、全て人生のゲッセマニで泣く人たちの慰めと励ましになるでしょう。誰にとっても、主が弟子たちの足を洗って実地に示されたような、謙遜で喜ばしい兄弟姉妹への奉仕を果たす動機となります。

（…）（九五・四・十二）

使徒的勧告 「和解と悔悛」要約（3）

〈大聖年への準備として〉

告解の秘跡（赦しの秘跡）の本質をなすもう一つの面、それは裁判官であり同時に癒す者としての司祭、立ち返る人を迎え入れて赦す父なる神の象徴としての司祭の役目のこと、つまり「罪の赦免」です。（…）

告解の秘跡をしめくくる行為は「償い」です。国によっては、罪を赦され、赦しの言葉を受けた後で信者がする行為を償い（贖罪）と称しています。（…）

赦しの秘跡についての他の確信

まず始めに、告解が最も個人的で内的な秘跡である点を強調しなければなりません。この秘跡にあずかる信者は、自らの罪と痛悔、信頼の心で神の前に一人で立ちます。自分のかわりに他人に悔い改めをしてもらったり、赦しを願ってもらったりはできません。（…）すべては本人と神との間のできごとです。

次に大切なこと、それは告解の秘跡で赦しを得た結果として最も重要なのは神との和解であるという点です。神との和解は一度失われたのちに見つかった息子の、心の底で起こることですが、告解する人はまさに放蕩息子です。ところで神との和解は、もう少し広い意味での和解への道を開いてくれます。すなわち、罪が原因となって生じた裂け目を修復することです。罪を赦された人は心の奥底で自分自身と和解し、本来の姿を取り戻します。さらに、何らかの形で攻撃し傷つけてしまった兄弟たち、教会、ひいては全被造界と和解することになるのです。（…）

ここでもう一つ加えるべきことがあります。役に立つ良い聴罪司祭であるために、司祭はこの秘跡に内在する恩寵と聖性の源に助けを求めるべきであるという点です。私たち司祭が自らの経験に基づいて言えること、それは司祭自身が注意深く良い準備をしてひんぱんに告解の秘

説教・講話・書簡等の抄訳

跡にあずかればあずかるほど、聴罪司祭としての聖務を一層効果的に果たすことができ、告解する信者に効果を保証できるという事実です。（…）

この使徒勧告を機会に、世界中の司祭、特に司教職における兄弟たち、主任司祭の方々に切にお願いします。どうか信者の皆さんがこの秘跡を思いきり活用することができるよう、鋭意ご尽力ください。

司式の形式

第一の形式は告解者の個別の和解で、これが唯一、通常の司式の方法です。この個別の告白と個別の赦しを廃止したり無視したりすることがあってはなりません。第二は、赦しの秘跡を受けるために大勢の信者がいる場合。これは準備段階において、この秘跡の共同体的な面を明らかにするのに役立ちます。とは言え、秘跡の頂点となる個別の告白と個別の赦免という点では、第一の形式と何ら変わるところはありません。三番目の共同回心式、つまり一般告白と一般赦免を伴う形式は、その性質上、例外的なかたちです。従って、第三形式にするかどうかは自由選択にまかされているのではなく、特別な規定で規制されています。（…）

第一形式は、その個別的性格のおかげで、本来ならば関係のないこと、つまり「霊的指導」と容易に関係づけることができます。（…）

（また、）釣り合いの取れた霊的指導のためにすこぶる大切なのが、小罪しかなくても赦しの秘跡を活用することです。これについては信者の皆さんに繰り返し教え続けなければなりません。何世紀もの間、伝承され、実践されてきた教えに基づいていることですから。

小罪は事実、告白以外の方法、たとえば痛悔、善行、祈り、回心式などによっても赦され、教会もそのように教えています。しかし、小罪しかない場合にもこの秘跡が格別に有効である事実をたえず思い起こさせてきたのも確かです。ある信者の人々が実行しているように、赦しの秘跡にたびたびあずかれば、たとえ些細な罪であっても神を侮辱し、キリストの体である教会に害を与えることに変わりはないという事実を一層深く自覚することができます。

一般赦免

今回の司教会議では、提案の一つで、教会がいにしえの伝統から受け継いできた不変の教えが繰り返し主張されました。また、教会法典に織り込まれた、伝統的な悔悛に関する法律も重ねて述べられました。すなわち、個別の赦免を伴う、個別の完全な（インテグラル）告白こそ、重大な罪を自覚する信者が神および教会と和解するための唯一にして通常の形式であるという教えです。この教えが確認されたという事実からして、重大な罪は全て必ず、個別の告白によって、罪に伴う事情と共に告白しなければならないことが明らかになるわけです。（…）

例外的に第三形式を用いることができますが、その結果、第一の形式を軽視するようなことがあってはなりません。ましてや通常の形式を放棄することなど認められないばかりか、第三形式が他の二つの形式のかわりになると考えるわけにはいかないのです。（…）

いずれが最も適切な形式であるかを選択できるのは、主任司祭でも信者でもありません。信者が完全で個別の告白ができるよう助けるのは司牧者の義務です。これは霊魂にとって必要なことである上に、義務であり、同時に奪うことのできない権利なのです。

（一九八四・十二・六）

教会はすべて真であるものを受け入れる

バチカン公会議をふり返る　シリーズ12

親愛なる兄弟姉妹の皆さん。

「キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言」（以下「宣言」と略す）は、第二バチカン公会議文書の中でも一番短かいものですが、その重要性と新しさを見逃すことはできません。それはキリスト信者と他宗教の信奉者が互いに敬意をもって対話し、人間の真の福利のため協力し合う道を示しています。

不幸なことですが、かつては宗教上の確信のもとに、敵対がありました。「宣言」は、神こそが人類の兄弟愛の確固たる基礎であることを思い起こさせてくれます。「すべての民族は一つの共同体であり、唯一の起源を持っている。…また、すべての民族は唯一の終極目的、すなわち神を持っている。神の摂理と慈愛の証明、さらに救いの計画は、すべての人に及ぶ。」（1番）

この確信が、真理という概念を相対化するものであってはならないのは、当然です。ですから教会は、託身した神の子キリストのみが「道、真理、生命」（ヨハネ14・6）であり、キリストにおいてのみ人は宗教生活の充満を見い出す（「宣言」2番参照）のだ、と新たな熱意を込めて伝え広めることを自らの義務としています。

しかしこのことが、多くの宗教に見られる前向きな要素を過小評価することにつながってはなりません。「宣言」は特にヒンズー教や仏教、イスラム教その他の伝統宗教の霊的豊かさについて触れています。「カトリック教会は、これらの諸宗教の中に見い出される真実で尊いものを何も排斥しない。これらの諸宗教の行動と生活の様式、戒律と教義を、まじめな尊敬の念をもって考察する。それらは教会が保持し、提示するものと

●「世の光イエズス・キリスト　カトリック教会のカテキズム要約Q&A」…（新カテキズムの内容について知りたい人のために）ラングロイス著…本体定価一、一六五円
●「罪と赦し」……（赦しの秘跡をもっと上手に受けたい、という人のために）　…ルナ、セラヤ、デ・アロ共著…本体定価九〇〇円
●「神の朋友」（第2版）…（霊的生活に役立つような説教集を探している人に）…ホセマリア・エスクリバー著…本体定価一、五五三円

セイドーの教理出版物には、教理の知識を深めるための要理書、信者の内的生活を豊かにする霊的書物、時代の流れにつれて現われる諸問題を考えるための説明書などがあります。出版物一覧のお申し込み・お問い合わせは精道教育促進協会までどうぞ。

は多くの点で異なっているが、全ての人を照らす真理の光線を示すこともまれではない。」（2番）

「宣言」は、キリスト教がとりわけ深い関係を持つユダヤ教の兄弟たちに対して、特別な注意を向けています。実にキリスト教信仰はユダヤ民族の宗教体験に端を発し、キリスト自身もその民族の一人だったからです。聖書のうち旧約と呼ばれる部分は、カトリック教会もユダヤ教も共通です。教会は今も同じ真理の遺産から生命を汲み、キリストの光に照らして読み返します。キリストが新しい永遠の契約によって開いた新時代の始まりは、この古い根を滅ぼすものではなく、普遍的で豊かな実りをもたらすものでした。この事実を考えてみれば、キリスト教とユダヤ教の間にしばしば起こった緊張状態は、深い悲しみであると言わざるを得ません。今日も「ユダヤ人に対する憎しみ、迫害、反ユダヤ主義の運動を、それがいつ、誰によって行なわれるものであっても、すべて嘆き悲しむ」（「宣言」4番）と述べた公会議の声を、私たち自身のものとしなければなりません。

宗教精神の模範であるマリアに祈ります。あらゆる宗教の信奉者たちが、神を見つめて生き、各自の信じる真理の要求に忠実であるよう、励ましてください。教会がマリアの取り次ぎと助けによって、真理への忠実な証言と、全ての人との対話を両立させることができますように。また、全ての宗教信奉者たちが互いに理解し、尊敬することを学び、神のみ旨にそった平和と普遍の兄弟愛を築くため、共に働くことができますように。

（九六・一・十四）

東西教会の教父たちを敬う

★東西のキリスト教を結び付ける大きな要素は、東西共通の教父たちへの崇敬です。その表われが、初期の聖人たちへの崇敬です。それらの聖人たちのほとんどは司牧者で、その教えや神学的考察によって異教の世界から信仰を守り、福音のメッセージと当時の文化との出会いに当たって決定的な役割を果たした人々です。教会は、彼らを聖伝の偉大な証人と見なしています。中には、キリスト教思想と世界文化の歴史上、真に「巨人」と言うべき人もいます。

教父たちの時代の魅力は、東西間の実り豊かな交流がもたらしたものです。

とりわけ影響が大きかったのは、東方で生まれた二つの学派、すなわちエジプトのアレキサンドリアとシリアのアンティオケアです。一方が比喩的（アレゴリカル）な解釈を重視した方法で聖書の解釈を行なったのに対し、他方では逐語的・歴史的な方法による研究が好まれました。このように、二つの学派は互いに補い合うような視点から、信仰の真理、特に託身の秘義についての考察を進めたのです。天才オリゲネスが不滅の業績を残したアレキサンドリアでは、人となったみことばの栄光に重点が置かれ、アンティオケアではキリストが真の人間であったことが強調されました。どちらの見方も、教会の信仰が公言するイエズス・キリストの本質を理解する上で、欠くことのできないものです。

★こうした思想の大半は西方キリスト教世界に伝わり、東西社会の活発な交流が始まりました。その当時の、二つの伝統の間にはっきりした違いを見つけるのは困難です。一方を他方と対立させて考えると問題を起こしかねません。教会は喜んで両方を頼みとします。東方の偉人たちのうちで、三人の聖なる司教、大聖バジリオ、ナジアンスの聖グレゴリオ、聖ヨハネ・クリゾストモをあげれば十分でしょう。彼らはキリスト信者の神に対する見方を深める上で、計り知れない貢献をしました。神の本性は言い知れず、人間のあらゆる考えを超えているが、同時に救いの歴史の中で、親しく私たちに近づき、三位一体の生命について明かし、人となったみことばとして、また聖霊を送ることで、ご自身を私たちに与えてくださったことを強調したのです。それは神について語ると同時に、創造主の似姿として造られ、御子キリストのうちに子として生きるよう招かれた人間の尊厳について語ることでもありました。

聖アンブロジオから聖アウグスチヌス、聖ヒエロニモから聖大グレゴリオに至る西方の偉大な教父と博士たちは、研究を続け、秘義の洞察においていずれ劣らぬ業績を上げました。みなそれぞれに異なってはいましたが、意見は一致して、唯一のキリストの真理に仕えていました。司牧の思想とは、まことに思いと生活との一大交響曲なのです。

★皆さん、この膨大な、時機を得た遺産を再発見することができるよう、祝された処女に願おうではありませんか。教父たちは今なお私たちに語りかけています。その言葉は、神学とキリスト信者の形成に大いに役立ちます。神の御母の真の模倣者であった教父たちは、不毛の空論ではない、祈りと聖性に満ちた理解とは何かを私たちに示してくれます。その教えに従えば、完全な教会一致の展望へと力強く信者を導く神の霊に耳を傾けることができるでしょう。

（九六・八・四）

不変の教え

教皇さまのうごき

●5・6　教皇庁スイス衛兵の宣誓式にて。「数ある任務の中でも、訪れる全ての巡礼者たちを心から暖かく迎えるのが皆さんの大切な務めです。そうすれば、誠意と歓待に満ちたバチカンを印象づけることができます。皆さんはバチカンを訪れる人が最初に言葉を交わす相手である場合が多いからです。」

※スイス衛兵は一五〇六年、教皇ユリウス二世の創設に始まり、教皇座の警護にあたる。バチカン市内での任務に加え、教皇さまの旅行にも同行する。部隊は士官四名、司祭一名、衛兵七〇名から成る。

●5・6　ローマで開かれたヨーロッパ召命会議の開会に当り、教皇さまからのメッセージ。「人生は召命そのものです。人間の全存在は、いろいろな機会に愛を示してくださる神への返答です。生命への呼びかけ、教会の恩寵の交わりに入ること、教会共同体の中でキリストを証しせよという招き、死を迎える時、神と決定的に一致するようにとの招き。」

●5・7　水曜日の一般謁見でのお話。「十字架上のイエズスが使徒ヨハネに聖母を託した時の言葉を思い出してください。あれは、私たちもマリアを母として受け入れ、聖母の愛に子供のように応えるようにとの招きなのです。…教会の聖母崇敬の真の意味はそれであり、キリストの意志に基づくものです。」「キリスト教の敬神の歴史を振り返れば、マリアがキリストに通じる道であること、聖母への子としての敬愛は決してイエズスとの親しさを減じはせず、むしろ親しさを増して、それを高次元の完成にまで至らせるものであることがわかります。」「聖母が救いの途上で摂理的な役割を担っていることを理解し、皆さんの毎日の生活の中に聖母を招き入れてください。」

引き続き、4月の核兵器禁止大会に言及された。「政府の指導者たちに、一刻も早く本大会で示された事柄を実行に移すよう努力してくださることを願います。将来に向けた真剣な取り組みを全人類が望んでいます。」

●5・9　ヨーロッパ召命会議の閉会を前に。「召命は自然発生するものでもなければ、努力次第で現われるものでもありません。あらゆる召命は、ひとえに神からの贈り物だからです。」「効率や実用性、人間的な見地からのみ人生を見る世俗化の波に抗して、全ヨーロッパで大いなる祈りの運動を起こすことが緊急の課題です。」

●5・10　二日間の日程でレバノンを訪れた教皇さまは、夕方、海を見下ろす「レバノンの聖母」大聖堂で二万人の若者たちと共に祈り、お話しになった。「長い紛争の時代に築かれた壁を崩すのは皆さんの役目です。二度と国土に壁を築いてはなりません。人々の、家々の、他の国々との間に橋を架けてください。…愛こそは、レバノンを再建する最大の武器です。」

引き続き教皇さまは、世界代表司教会議（シノドス）後の使徒的勧告「レバノンの新しい希望」に署名された。「いま私たちの集うこの教会堂は丘の上にあって、ベイルートの町から一目で見えます。皆さんも人々の間で輝かしい模範となってください。自分が信者であり、キリストの弟子であることを忘れないで！それは皆さんの光栄であり、希望、使命ですから。」

●5・11　ベイルート市内の教会で荘厳ミサ。五万人の信者たちを前にして、「レバノンではさまざまな宗教と信仰が平和のうちに親しく協力し合って共存してきました。人は誰に対しても、信仰の自由を尊重し、同じ祖国への愛のうちに一致できることを世界に示したのです。」「私たちは今、二千年前キリストが歩まれた地にいます。神の御子はまず皆さんの先祖の人々に向かって良い知らせを告げました。素晴らしい特権ではありませんか。レバノンは聖書の国です。」　その夜八時、教皇さまはローマへの帰路、空港で、今回の訪問を円滑に進めた関係各位に感謝を表された。「指導者の方々には、国際法、特に中東の法を尊重しつつ国家の主権と正当な自治、安全を保障されるよう心から勧めます。」「永続的な平和への試みが、決意と勇気と首尾一貫性に支えられて続くことを希望します。」

●5・13　ファティマの聖母ご出現八十周年記念日に当たり、ファティマ司教に当てて書かれる。「聖母が託されたメッセージは今も預言的な力をもって響き、祈りと回心、自らと世の罪を清めるための寛大な努力を訴えています。」

●5・14　水曜日の一般謁見で、レバノン訪問を振り返って話された。「レバノンは開かれた社会です。同国の市民と近隣諸国がこの開放性を尊重することを望みます。さもなければレバノンは国内でも、近東諸国間でも、その使命を果たすことができないでしょう。」

●5・15　食品加工業者の国際代表会議出席者を迎えて。「不幸にも世界中で多くの人が飢餓と栄養失調に悩んでいます。満ち足りる人がある一方で、餓えた人がいます。このようなアンバランスを是正するため、できる限りの努力をお願いします。大きな課題ではありますが、私たち一人ひとりが貧しい人への関心を具体的な形で表わすべきです。イエズスは貧しい人を福音の社会メッセージの中心に据えられたのですから。」

同日、各種援助事業を行なう教皇庁内各組織の総会に集まった面々を前にして話された。「各教会間の兄弟的な協力を推進し、福音宣教に協力してくれる人々を数多く育成してください。絶えざる祈りと犠牲、聖性への努力に支えられている限り、こうした協力は必ず実を結びます。」「宣教者の保護聖女、幼きイエズスの聖テレジアは、福音宣教に身を捧げる唯一の道は聖性への努力に根ざすものであると教えています。これは宣教への全ての召し出しの前提となるものです。」

「教皇様の声」　ヨハネ・パウロ二世教皇の説教、書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙。■毎月十日発行　■定価　送料とも一部百八六円　■年内定期購読　送料とも六月号から一、一二四円。一月～十二月号二、〇八七円。　詳しくは精道教育促進協会まで。

郵便振替
01130-
8-72393